

福岡縣

唐津灣の東北に芥屋大門あり九州の玄武洞なり。此近傍には炭田ありて多量の石炭を産す。其西方に名護屋あり、征韓役の時秀吉の本陣たりと處なり。武雄は温泉を以て名あり。

**福岡縣** 北部九州山脈縣の中央を貫き地勢は北は日本海及瀬戸内海に、南は筑紫海に向て低下す。遠賀川北部を流れ、其流域及附近の地は平衍にして田圃開け、農産物少からず。且石炭脈に富み、九州中人煙最も稠密の處なり。南方に筑後川あり、其灌域は佐賀縣の一部と共に九州第一の平野をなす。

福岡市

**福岡市** 人口六萬三千餘は博多灣に瀕す。舊博多福岡を合して福岡市をなす。九州第二の都會にして、黒田氏(五十三萬石)の舊城下なり。現今福岡縣廳及歩兵第二十四聯隊を置く。博多織の本産地にして、又蠟燭を出す。其港は博多港にして、古來

久留米市

より外國船の來泊せしと屢々なりき九州の天橋立と稱せらる海の中道は其北に斗出と、風景絶佳なるも、水淺きを免れず。今開港場の一にして、貝原益軒は此地の出なり。市の近傍なる箱崎の宮は、應神天皇を奉祀し、又敵國降伏の勅額を納む。香椎宮は神功皇后を祀る。是れより南五里にして、大宰府あり。菅原道眞を祀れる天満宮あり。其中途に水城の古趾あり。又福岡の東北方なる蘆屋及若松は此地方の名邑にして、又煙草、甘蔗及生蠟を産す。

**久留米市** 人口二萬七千餘は筑後川の畔にあり、有馬氏(二十萬石)の舊城地にして、今歩兵第二十四旅團司令部及歩兵四十八聯隊を置く。久留米緋及綿織の産地にして、高山正之の噴墓あり。筑後川の下流に大川(人口一萬一千餘)あり。縣下南方の要津なり。其東南なる柳河は立花氏の舊城下にして、

小倉市

地方の名邑なり。大牟田(人口一萬八千餘)は三池炭坑と接し、石炭の輸出上の要津なり。

小倉市(人口二萬一千餘)は豊前北邊の都會にして、小笠原氏(西十五)の舊城治所なり、兵事、上樞要の地なるを以て、西部都督府及第十二師團司令部の所在地たり、又小倉織の本場なり。是れより東北三里にして門司市(人口二萬三千餘)あり、其港は長門の赤間關と對し、開港場なり。九州鐵道の起點にして、市街繁華に、昔三韓の貢を受けし文字の關趾あり。豊津は織物を産す。

大分縣

大分縣 北に北部九州山脈の一部あり、南に南部九州山脈横はり、中央には阿蘇火山帶噴起するを以て、地勢一般に高峻にして、交通甚だ不便なり。而して山國川、驛館川、大分川、大野川の下流に、僅かに平野を開くあるのみ。藺席、紙、煙草及

大分

礦物の産あり。

大分(人口一萬二千餘)は大分縣廳の所在地にして、市街稍繁華なり。鑛物、檜物、細工を産す。北に別府港あり、温泉を以て名あり。南に臼杵(人口一萬餘)あり、大分に次く繁華の市街なり。其他佐賀、關、佐伯あり、共に地方の名邑なり。

中津

中津(人口一萬五千餘)は山國川の東岸にあり、奥平氏(石十萬)の舊城下なり。山國川の上流は、頼山陽により傳へられたる有名の勝地耶馬溪なり。驛館川の畔に宇佐あり、宇佐八幡宮のある處なり。

宮崎縣

宮崎縣 本邦太古の歴史に少なからざる關係を有するの地なり。地勢一般に高峻にして、西南の境界に霧島火山帶あり、西北境に南部九州山脈あり、此等の脈延て縣内に蜿蜒し、一瀬、大淀、高鍋の諸流域のみ、稍平坦にして、田圃開け、人煙

宮崎

稠密なり。其他美々津川、五個瀬川等あれども、流域廣からず、交通耕耘共に不便なり。而して椎茸、日向半紙は縣下の名産なり。

宮崎は大淀川の下流にあり、宮崎縣廳の所在地なり、近年の開拓に係り、且交通不便なるが故に、微々として振はず、人口も未だ一萬に達せざる一小市街なり。

都城は日向より大隅に通ずるの要路にして、縣下第一繁華の都邑なり、高千穂宮の舊趾あり、油津は大島前に横はり、縣下の要津なり。其附近の鉄肥には林産多し。

延岡は北方の名邑にして、五個瀬川の流域にあり。此川の上流には、天孫降臨の地と稱する高千穂あり。細島は又北方の要津なり。其他高鍋、佐土原の名邑あり。

鹿兒島縣

鹿兒島縣

九州の南端にあり、鹿兒島灣深く灣入して、薩摩

鹿兒島市

大隅は共に半島狀をなす。北部一帯は南部九州山脈及霧島帶の高峯あり。其他開聞岳、金峯山、高隈山等各所に聳立し、川内川の流域及沿海の地方を徐くの外、地勢概高峻にして、交通不便なり。而して夥多の島嶼は其西南方に連れり。金煙草は名産にして海産も亦甚た多し。

鹿兒島市(人口五萬四千餘)は、鹿兒島灣の西岸にあり、西南の雄藩島津氏(萬石七十七)の舊城下にいて、現今鹿兒島縣廳及歩兵第四十五聯隊の所在地なり。市街繁盛にして、煙草、木綿、飛白、陶器を産す。城山は、市の北邊を繞る西郷隆盛の討死せし處にして、其海灣は、文久年間英艦と戦ひし所なり。前面に櫻島あり。北岳最も高く、噴烟止む時なら、此邊蘿蔔の産地なり。市の南に溪山(人口二萬四千餘)あり、名邑にして、錫を産す。又軍馬を養ふ。尙南に指宿(人口一萬六千餘)あり、盛に薩摩焼を

加治木



鹿兒島市より櫻島を望む

製造す。附近に山川港あり。加世田(人口一萬四千餘)は西南部の名邑にして、附近には鹿籠金山あり、北方の芹野金山と共に、本邦主要の金産地なり。阿久根(人口一萬五千餘)は肥前に通ずるの要路に當り、焼酎を醸造す。其附近の出水は、煙草の産地なり。

加治木(人口一萬二千餘)は大隅の名邑にして、陶器を製造す。近郷の國府は有名なる國府煙草の産地なり。志布志

(人口一萬餘)は東海岸の名邑なり。

本縣の南方には島嶼甚た多し。種子島(圖三)屋久島(圖十)稍大なり。種子島は、我國に始めて銃器の渡來せし處なり。屋久島には、八重岳(六千二百餘尺)の高峯聳ゆ。其他口永良部島竹島硫黃島あり、竹島は竹を産し、硫黃島は硫黃を産す。尙南方には大島鬼界島徳島沖永良部島等あり。大島は周回五十九餘あり。島内の名瀬港は要津にして、島廳の所在地なり。是等諸島の西方に、所謂寶七島連る。以上の諸島は海産の利あるのみならず、盛に砂糖を製造す。

### 第一章 北域

本域は中域の東北に位す、開拓未だ周からず、一廳及其支廳を置きて、是を管轄す。其周回及面積は左の如し。

北海道本島及其附島	周	面積
千島三十二島	六二八、五二	五〇六一、九〇
	六三三、二二	一〇三三、四六

#### 山系

##### 第一節 山系

地勢上より、北海道を分ちて東部及西部とす。東部には三の著しき山脈あり、即ち東北山脈、日高山脈及千島火山帶是れなり。西部には渡島山脈、後志山彙あり。

東北山脈  
日高山脈

東北山脈は天塩川の東側に沿ひ、北見、天鹽兩國の界をなす。日高山脈は日高國襟裳岬に起り、日高十勝兩國の境に沿

#### 千島火山帶

#### 渡島山脈 後志山彙

#### 水系

ひ、北走と殆ど北海道本島の中央に至て盡くるものなり。前者中には宗谷岳、天鹽岳、石狩岳等峙立すれども、山勢一般に急峻ならず、平均の高さ二千尺に達し、其最高峯と雖も五千尺を超ゆるもの極めて稀なり。後者は山勢頗る急峻にして、芽室岳、神威岳等あり。夕張岳は其支脈中の高峯なり。

千島火山帶はカムチャッカ半島より來り、千島列島を噴起し、知床岬より北海道本島に入り、西方に走り、其東部を南北に兩分す。脈中ラウス山、雄阿寒岳（四千九百餘尺）、雌阿寒岳（五千三百餘尺）、オプタテシケ山（六千五百餘尺）等ありて、著名の活火山を含む。

渡島山脈に屬する重なる者は、駒岳（三千五百餘尺）及惠山にして、後志山彙に屬する重なるものは、有珠岳、樽前岳（三千餘尺）、イワノボリ（六千四百餘尺）、マクカリヌプリ（六千四百餘尺）等なり。

##### 第一節 水系

河流

河・流 北海道本島の山脈は、其中央に於て恰かも横に丁字形をなせるを以て、南北兩部及西部に傾斜し、廣大なる平野其間に開け、此間を貫流する大河少なからず。

石・狩・川は我國第一の長流にして、源を石狩岳に發し、**雨龍**、**空知**、**千歳**の支流を合せ、石狩灣にそゞぐ。全長百六十餘里、河口より二十里餘の間、舟楫の便あれども、人工を加ふれば、百里の間舟を通ずることを得べしと云ふ。鮭の産甚た多く、其流域は殆んど二百万里に近き、茫々たる石狩の平野をなす、地味肥沃にして、灌漑に便なれども、未だ充分なる開拓を見ず。

天・鹽・川は天鹽岳に發源し、河道頗る屈曲に富む。七十里の長流をなし、日本海に注ぐ、水産の利甚た多し。

十・勝・川はオプタテシケの南側に起り、音更、利別、札内等の

支流を合せ、太平洋に注ぐ。其灌域は有名なる十勝平野なり、人煙稀にして廣漠たる肥沃の平野も、空しく野獸の逐驅場たり。

其他**釧路川**（**釧路**國）**西別川**（**根室**國）**常呂川**（**湧別**川）（**北見**國）**沙流川**（**高**國）等あり、何れも水産の利甚た多し。

以上の諸川は他府縣の河と其赴を異にし、河床は年々融雪の爲め其位置を變じ、水路甚たしく曲折し、時に美麗なる段階をなすことあり。

湖沼

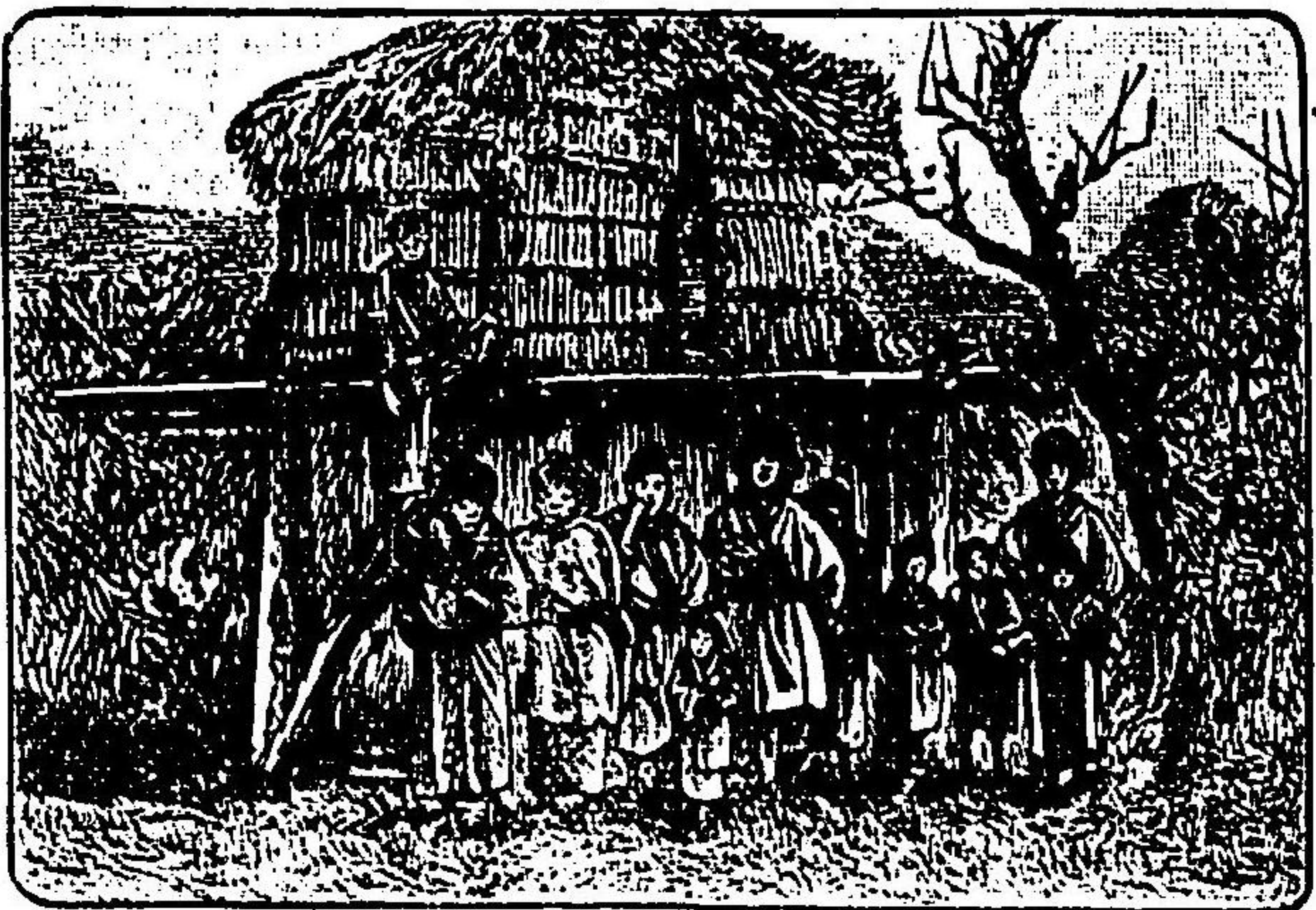
湖・沼 サルマ湖は北海道第一の大湖にして、北見國にありて、周圍十八里餘あり。風連湖は根室にあり、周回十五里餘にして、サルマ湖に次ぐ大湖なり。孰れも其一部海に通じ、多少の鹽分を含む。其他**膽振**に**支笏湖**（**周**國）**洞爺湖**（**周**國）あり。釧路に**釧路湖**（**周**國）**阿寒湖**、**北見**に**網走湖**等あり。

沿岸

第三節 沿岸

北海道の沿岸は西南の半島部及根室地方を除くの外概ね直線にして、良港灣甚だ稀なり。白神岬及惠山岬は本州と相對し、津輕海峽を狭み内に函館灣を抱く。灣頭に函館港あり。惠山岬より海岸線西北に灣曲し、内浦灣をなす。灣の沿岸を繞り、數多の火山あるを以て、一に是を火山灣と云ふ。其東端に繪柄岬突出し、内に室蘭の軍港あり。是れより東南襟裳岬に至る一帯の海岸は、弓形の大灣曲をなす。襟裳岬より花咲半島の納沙布港に至る間は、海岸線東北に延び、釧路河口に釧路港あり。厚岸灣に厚岸港あり、花咲半島には花咲港あり、其背面に根室港あり。根室灣に臨む灣の北方に知床岬突出し、國後島と相對して根室海峽をなす。知床岬より西北端なる宗谷岬に至る沿岸一帯は、屈曲極めて稀なるを以て、港

灣と稱すべきもの殆ど無し。宗谷岬の西方に禮文利尻の二島あり。是れより石狩灣に至る海岸には、増毛港あるのみ。石狩



北海道土人

灣には石狩港あり、其西に小樽港あり、こゝより西北に突出するものは積丹半島にして、積丹・神威の二岬あり。此半島の南は後志灣にして、内に壽都港あり。是れより福山港に至る間に江差港あり。其西北の沖に奥尻島あり、而して千島列島は、根室灣よりカムチャッカ半島の南端に至る、六百五十餘哩の間に羅列する、大小三十二の島嶼より成る。今其重なるものを擧ぐれば、國後島・色丹島・擇捉島

得撫島トウヌ・新知島トウチ・捨子丹島シロコ・恩彌オンミ・古丹島コタン・幌筵島ホウゼン・占守島シムシ・アライト島等なり。

北域の諸國

渡島國

渡島國 北海道の南部に位し、三面海に瀕す。國內には惠山・駒岳等の活火山高く聳へ、硫黄及林産少なからず。海岸附近は平野稍開け、農産亦少なからず。

函館區

函館區(人口七萬三千餘)は北海道南方の咽喉を扼す。五港の一にして箱館山前に聳へ、廣濶なる灣をなす。灣内水深くして船舶の碇泊に適す。殊に本道の外國貿易は、主として此地に依るものなれば、物貨輻輳し、豪商富賈櫛比し、銀行會社の設立備具す。主なる輸出品は石炭・硫黄・海産物にして、米・茶及種々なる製造品は、主なる輸入品なり。區の附近に、戌辰の役を以て有名なる五陵郭あり、製氷業盛にして世に函館氷

後志國



港館函及産物の道海北

の名あり。

福山(人口一萬餘)は函館の西南にあり、松前氏の舊城下なるを以て、又松前とも云ふ。松前支廳のある處なり。江差(人口一萬五千餘)は福山の北方にあり、鱒・鯉の漁盛なり。森は内浦灣の良港にして其附近より豆類を産す。

後志國 渡島半島の一部をなす。地形狹長にして、東南には余市・硫黄・狩場・遊樂部の諸山連り、西北は日本海面に



小樽

急斜し、尻別利別の兩流域は稍平坦なり。河海よりは鯨鮭夥しく産し遊樂部山よりは満庵を産す。

小樽(人口五萬四千餘)は小樽灣に臨み、開港場の一にして函館と伯仲するの要港なり。炭鑛鐵道の起點にして、瀛車程一時間餘を費せば、札幌に達することを得。商業甚だ盛にして、又漁業の中心市場たり。酒餚葡萄酒魚油を以て主なる物産となす。其南方の壽都は良港を有し岩内と共に漁業の中心市場なり。

膽振國

膽振國 國內に樽前後志有珠の活火山及マカリ、惠庭室蘭の諸山聳立し、地勢概高峻にして、千歳川の流域及海岸一帯に、僅かの平野連れり。千歳川には盛に鮭を孵化せしめ、沿岸より、昆布海苔を産する甚だ多し。

室蘭

室蘭は室蘭線の起點にして、瀛車札幌に通じ、瀛船函館青

日高國

森との間を往來す。内浦灣に臨む。繪鞆岬突出して、港口を扼す。氣候溫和なり、開港場の一にして第五海軍鎮守府の豫定地なり、附近の紋鼈は、稍繁華なり。

日高國 東北の境に日高山脈連亘し、西南なる太平洋面に傾斜す。海岸は一直線にして、良港灣なく、襟裳岬其南角をなす。氣候稍溫和にして、土人の住居するもの極めて多し。新冠高原にては盛に牛馬豚を養ふ。砂流川、染退川及其他の河流よりは鯨鯨の産夥し。

浦河

浦河は支廳のある處にして、平取には義經社あり。

石狩國

石狩國 東北部は山地に屬し、西方の一部は日本海に面す。中央は石狩の平野にして、石狩の巨流蜿蜒として其間を流る本道中最も早くより開拓せられし平野にして、炭鑛鐵道は小樽を起點とし、札幌を過ぎ、空知、太、幾、春、別、夕、張に達し、

札幌區

室蘭線は千歳川に沿ひて室蘭に達す。  
 札幌區(人口三萬五千餘)は石狩平野の西南部にあり、街區  
 直角に交り、井然として紊れず、道廳第七師團司令部及札幌  
 農學校等の設あり。市況殷賑にして、本道の中心市場なり。ピ  
 ール、麻布、砂糖、酒、餡等の製造業甚だ盛にして、附近は有名な  
 る農産地に屬し、盛に甘菜、林檎、葡萄、麻、亞麻を培養し、又牛馬  
 の飼養、極めて盛なり。岩見澤は交通上の要區にして、上川に  
 は支廳あり、又屯田兵の駐屯地にして、本道中最寒の地なり。  
 空知、雨龍等に屯田兵駐屯す。夕張、空知、太、幾春別等の炭坑よ  
 りは頗る多量の石炭を産す。

天鹽國

天塩國 西面日本海に面する一帯は稍平坦なるも、國境  
 には山岳重疊す、禮文、利尻の二島及海濱の地は漁業者多く  
 殊に焼尻、天賣の二島は、水産甚だ豊なるを以て著はる。

増毛

増毛は國中第一の良港を有し、支廳の設あり。此地方の漁  
 業の中心市場にして、小樽、石狩との交通瀕繁なり。

北見國

北見國 西境に東北山脈あり、南境に千島火山帶ありて  
 地勢一般にオコック海面に傾斜す。湧別川、常呂川、網走川の  
 附近は平野能く開け、其他の海濱一帯は砂丘及潟多き平地  
 にして、本道中人口最も稀少の地方なり。

宗谷

宗谷は本島最北端の地にして、樺太の熊取岬と相距る、僅  
 かに十二里に過ぎず。漁業盛なり。稚内には支廳の設あり。枝  
 幸附近よりは、近來盛に砂金を産す。湧別、常呂には屯田兵駐  
 屯す。網走は稍良港を有し、本邦中雨量の最も少き處なり。

十勝國

十勝國 北に千島火山帶の諸山噴起し、西は日高山脈に  
 よりて限られ、東南は太平洋に面し、海岸線の屈曲甚だ少し。  
 十勝川國の中央を流れ、十勝平野を灌漑す。此國は河海に水

産の利あり、山野に良材を藏すと雖も、現今は開拓未だ周からず、人煙稀にして、十勝・太・大津は人家稍稠密の處なり。

釧路國

釧路國

北部は高峻なる千島火山帯の火山聳立す、釧路

阿寒の流域は平野開け、沿海にては、鱒・昆布海苔の産極めて多し。北方なる雄阿寒・雌阿寒等の火山よりは、多額の硫黄を産し、之が爲めに標茶・跡佐・登間に鐵道を布設せり。

釧路

釧路は開港場にして、支廳のある處なり、厚岸は厚岸灣内にあり、稍良港を有し、牡蠣を産す。

根室國

根室國

西北境は山岳圍繞し、東に根室灣を抱き、南は太平洋に面す、地勢平衍なれども、寒威甚たしく、農耕に適せず。

根室灣は冬期波荒く、又屢結氷す、然れども海産甚た豊なり。

根室

根室人口一萬七千餘は、根室灣口にあり、本島東部の都會にして、支廳のある所なり、商業稍盛に、市況殷賑なり、此地は

又千島諸島に渡るの要津なり。花咲港は其背面にあり、根室灣口結氷の際には、此港より貨物を陸上し、陸路根室港に輸送す。

千島國

千島國

千島火山帯の噴起せしものにして、各島殆ど高峻なる山岳より成り、農耕に適するの平野なし。

近海は霧深く、海岸は多くは斷崖をなす、船舶寄港の良港灣を缺く。全面積は四國島に似たり、氣候は最も寒冽にして、冬期海面多くは結氷し、又屢氷山の漂流せるものあり、住民甚た稀なれども、海産の利極めて夥し。

國後島

國後島

國後島の北端に爺岳あり、南方に泊港あり、泊灣に臨む。海

水深くして好泊の便あり、附近は鱒の漁業盛に行はる。其東に色丹島あり、斜古丹の良港ありて、根室港との往來多し。島中に野鼠・野狐及鴨・鷗・白鳥の類棲息し、海には鱒・鱒の魚族及

擇捉島

昆布・海藻の類あり。  
 擇捉島は列島中の最大なるものにして、周回二百八十里あり。島内モヨセナルプ阿登佐登等の峻嶺横はり、農耕に適せず。紗那は支廳のある所なり。丹根・崩留別は小港をなす。鮭鱒鱒の産甚た多し。是れより以東の各島は、人烟頗る稀にして、臘虎・臘肭・海獺・海馬・野鼠・野狐等群をなす。近來報公義會の志士數十名、相率ひて我國最東の占守島に渡航し、一意開拓に従事せり。

第三章 南城

本域は、中域の西南にあり。就中臺灣は明治廿七八年戰役の結果、帝國の版圖に歸し、特に臺灣總督府及其下の三縣三廳を置き、全島及其所屬の島嶼を管轄せしむ。琉球は久しき以前より内地の制度に従ひ、縣廳を置き、是れを管轄す。今其周回及面積を左に示す。

琉球五十五島	周回	面積
	三二五、〇六	一五六、九一
臺灣	三五一、三一	一三三、九〇
澎湖列島	七四、七五	八二〇

第一節 山系

山系  
沖繩の山系

沖繩列島は鹿兒島縣下に屬する薩南諸島と共に、殆ど平  
 行せる三彎より成立する者の如し(小藤博士の説)東海に面

臺灣の山系

新高山脈

したる内彎は、火山列島にして、九州の阿蘇活火山と共に一火山線を形り、太平洋に面する外面は低き石灰岩の島を重なるものとし、兩者の中間に地勢高峻なる古代の山岳ありて、其脈鹿兒島縣より來り、石垣島西長島を経て臺灣に連る。臺灣の山系は殆ど南北の方向を取る數多の平行山脈の集合にして、中央にあるを新高山脈と云ひ、東にあるをシルビヤ山脈と云ふ、更に其東に臺東海岸山脈あり、而して大屯火山帶は、新高山脈の北にありて、著しく北に偏す。

新高山脈は臺灣島の脊梁をなす、頗る高峻にして、中央より以南には一萬尺以上に達する高峯連續す。宜蘭の北なるカプスラン嶺に起り、大霸尖山に至り、殆ど一萬尺に近く、是より南走し、新高山に至り、高さ一萬二千八百餘尺に達す、實に本邦第一の高山にして、始め外人は是れをモリソン山と

シルビヤ山脈

臺東海岸山脈

云ひ、支那人は玉山或は雪山と云ひしか、我が領土に歸してより、至尊之に新高山の名を命じ玉へり、是れより同高度に近き高峯二三あり、卑南主山より漸々低下し、終に恒春半島をなす南岬に盡く。

シルビヤ山脈は本島の東北なるドーム角より起り、直ちに高峻なる南澳山をなす、次で此脈中の最高峯なるシルビヤ山を崛起す、高さ一萬二千尺以上に達すと云ふ、是れより雪山丹大山となり、南走して秀枯樂山(一萬二千尺)をなす、卑南主山邊り、新高山脈と一致す。

臺東海岸山脈は東海岸なる花蓮港の南方に起り、海岸に沿ふて南走し、卑南の北に盡く、高さ三千尺内外の連嶺なれども、其東方の山脚は直ちに海岸に迫り、峭壁斷崖をなす處多し。

大屯火山帶

大屯火山帶は三貂嶺より起り、大屯山連る。觀音山に其高峻なるものと雖も、五千尺以上に達せず。大屯山は數十年以前迄は硫黃を噴出せしことありしが、今は全く絶へたり。其他脈中には噴火口を有するものあり。

水系

### 第二節 水系

臺灣島は東西の幅員僅かに三十七八里に過ぎず、而して峻峭なる山脈東に偏して横はるを以て、東面には長流なく、西面には稍長流と稱すべきものあれども、多くは急峻なる溪流にして、平日は水量少なく、一朝降雨あれば濁流滔々として流れ、盛に上流の泥土砂礫を運搬し、河口に堆積す。されは河口及沿海は淺くして、舟運に便ならず。加之時々氾濫して、四近水害を蒙ること甚た多し。

淡水溪

淡水溪は上流を大姑媚溪と云ひ、シルピヤ山附近より發

下淡水溪

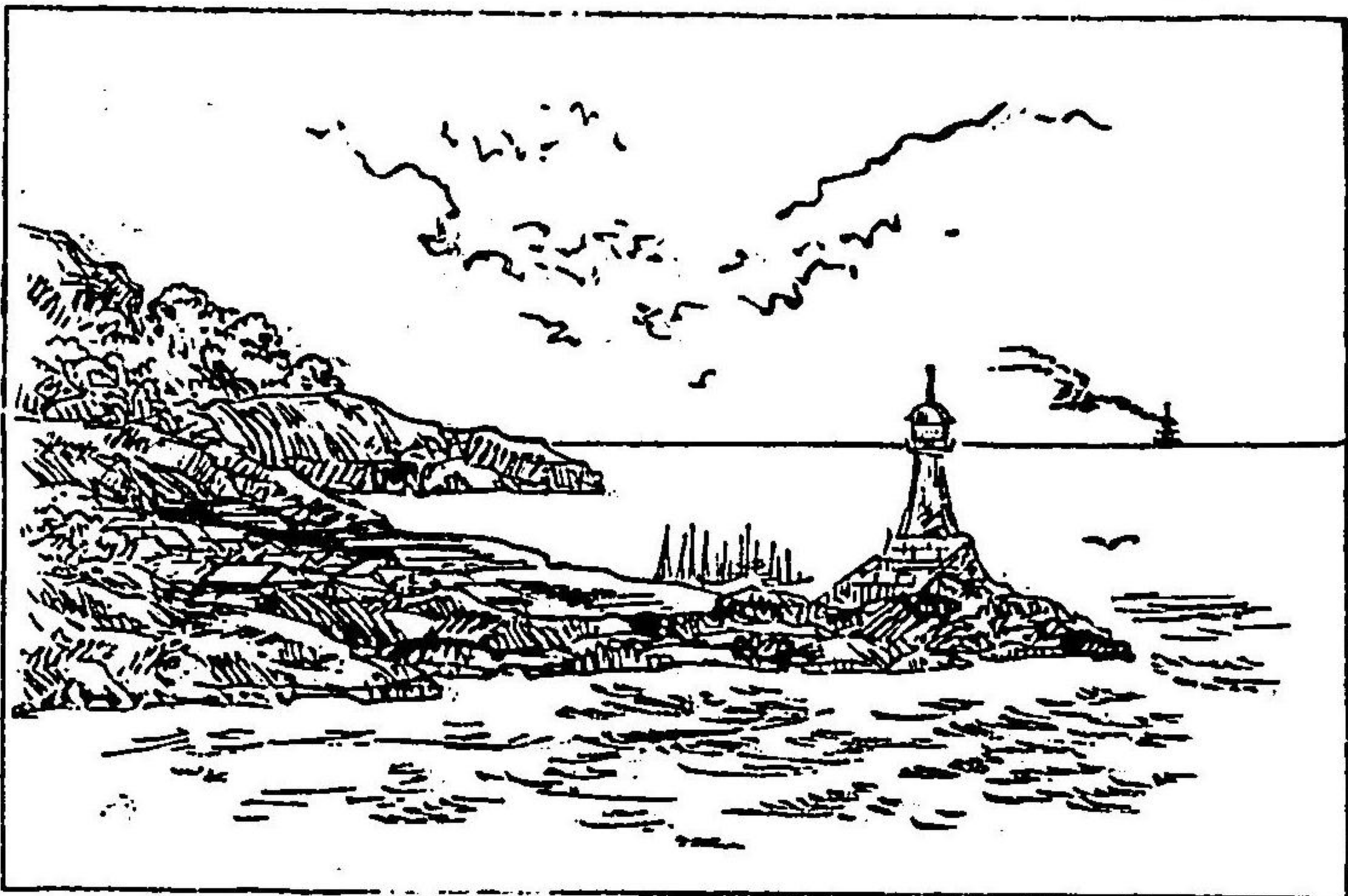
し、新店溪、基隆溪を合せ、淡水港に注ぐ。河口より二里許の間は、河道廣くして、汽船を通すべく、是れより俄に狹流となる。然れども臺北附近迄は、舟楫の便あり。

下淡水溪は新高山より發し、同山脈に沿ふて南流し、廣き平野を灌溉し、東港に注ぐ。淡水溪と共に、本島に於て利用多き溪流なり。其他西海岸に中港溪、房理溪、大肚溪、大里溪、西螺溪、北港溪、急水溪、皆西海岸の沃野を灌溉すれども、洪水屢起る。東海に注ぐものには、卑南溪、秀枯、鬱溪、昔來溪等あり。

### 第三節 沿岸

沿岸

臺灣島の沿岸は屈曲甚た少なく、殊に其東海岸は、所々に三千尺或は七千尺に達する山岳連亘し、且つ其急峻なる山脚を海に没するを以て、懸崖峭立船を寄するに由なく、航海者常に仰望して、其豪壯大觀を賞すと云ふ。然れども唯蘇澳



カヲラノ登臺

灣花連港は稍碇泊に便なり、北に回れば三貂角・鼻頭角の突出するあり、鼻頭角の西は基隆港にして、本島の良港なり、是より西北に富貴角突出す。是れ臺灣島の最北端なり、其西南七里許にして淡水港あり、稍良港なり。此より南岬に至る西岸一帯は、海岸線の屈曲極めて稀に、且近海は遠淺にして良港甚少。打狗・安平の二港は稍良港なり。本島の屬島には澎湖群島・紅頭

嶼等あり。

沖繩列島の沿海は屈曲に富み、二三の港灣をきにあらざるも暗礁多くして、船舶の碇泊に便なるもの少なし。

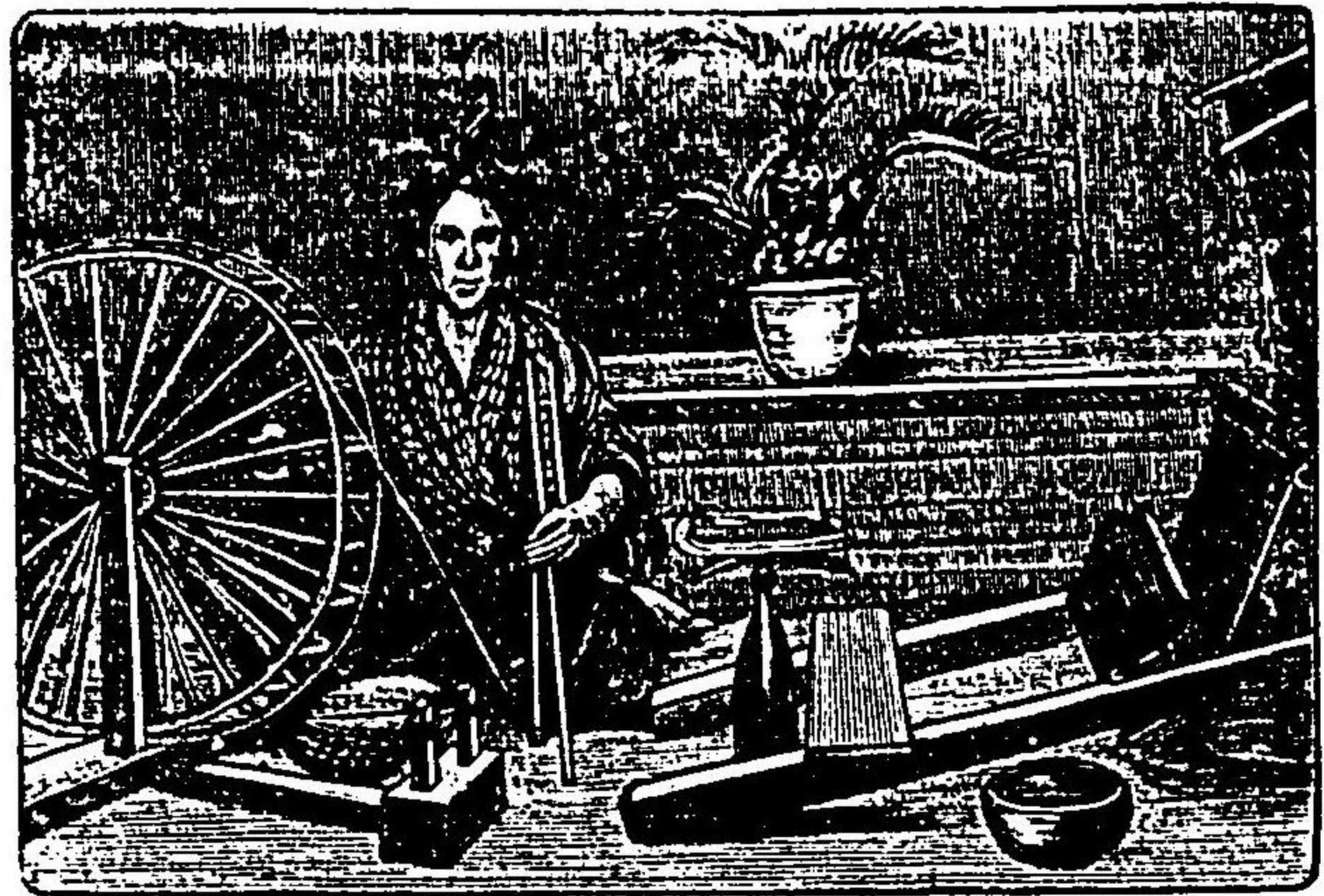
沖繩縣

第四節 南域の廳縣

**沖繩縣** 本縣の管轄に屬する沖繩列島は、薩摩の輿論島より西南に羅列する大小五十有餘の嶋嶼の總稱にして、東北にある一大島及其附屬島を沖繩群島と云ひ、西南にある二大島及其附屬島を宮古及八重山群島と云ふ。或は此を合して先島群島と云ふ。水淺く、河流小に灌漑の便を欠き、良好の飲料水に乏し。地味は肥沃相伴す、氣候は熱帶圈に近けれども、海風常に來り、溫度を調和するを以て、終歲溫暖にして冬期と雖も霜雪を見ず。然れども暴風の害は年々免れざる處なり。且八重山群島には風土病盛に流行して、人口年々減

すと云ふ。

甘蔗は一般に夥しく産じ、住民は皆之を常食とす、甘蔗も亦盛に培養して、製糖業甚だ盛なり。其他山藍、琉球絣、上布、芭蕉布泡盛は名産なり、又輸出品の一なる夜光貝は、實に此列島より産す。



沖繩土人

島第一の良港なり。中部を中頭と云ひ、南部を島尻と云ひ、那

チカカ

那覇港

覇首里伯の都會あり、那覇區(人口三萬四千餘)は琉球第一の都會なり、那覇港は開港場にして良港と稱す可らざるも、商業繁盛、船舶常に出入し、沖繩縣廳の所在地なり、首里區(人口二萬四千餘)は其東一里の處にあり、往時藩主尙氏の居城の地にして、今第六師團の分營を置けり。伯には歴代國王の廟地あり、阿護港は沖繩三良港の一にして、屬島慶良間群島中にあり、碇泊に便なるを以て、那覇港に船舶する者も、風濤の虞あれば、之を此港に避くると云ふ。

宮古群島は沖繩群島の西南六十餘里の處にあり、宮古島最も大にして、永良部島之に次ぐ、近海は暗礁殊に多く、航海不便にして、少く碇泊に堪ゆるものは唯張水港あるのみ、上布は名産なり。

八重山群島は、宮古島の西二十八里の所にあり、石垣島、西



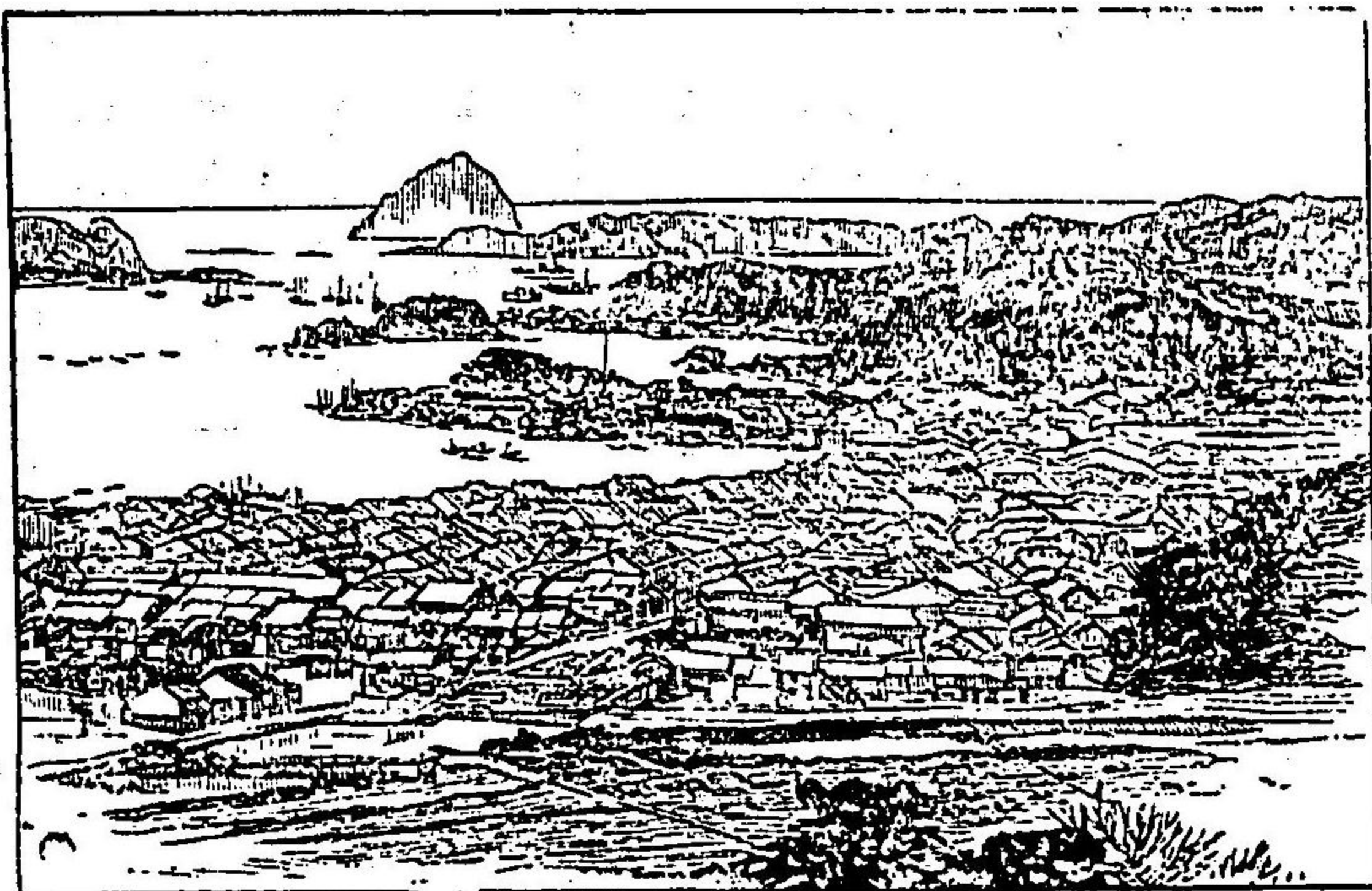
表島共に大なり。西表島の船浮港は、沖繩三良港の一にして、船舶の碇泊に便なり。同島は又石炭を産す。  
 與那國島は列島の最西端にありて、別乾坤をなす。結繩の風象形の文字あり。

臺北縣

臺北縣 臺灣島の北端に位し、炎暑甚たしからず、内地人の移住に適す。其北海岸附近及東南地方は、山岳重疊し、硫黄樟樹の産あり。淡水溪の流域は平野開け、王蜀黍、蕎麥、胡麻、落花生等を培養す。殊に茶は此地方の特産なり。又此地方は鐵道布設せられ、郵便電信の路開け、交通便利にして、北部に於ける主要の生産地なり。

臺北府

臺北府 人口五萬一千餘は淡水溪の流域に臨み、四隣沃野開け、臺灣鐵道は東西に通じ、又附近に淡水、基隆の二港を控へ、海陸の交通共に便なり。府城は劉銘傳の築く處にして、現



基隆港

今總督府第一混成旅團覆審院及臺北縣廳國語學校あり。内地人の最も多く住居する處にして、市況殷賑なること臺灣第一なり。附近に鯤鯓あり、一名舊街と云ひ、新店溪に臨み、巨商多し。又大稻埕は新店、大姑婚、兩河の合流地にあり、製茶の業甚た盛なり。  
 基隆港は港内廣からず、又東北風を妨ぐ能はずと雖も、多少船舶を碇泊せしむるに足る。且臺灣鐵道の起點地に

して交通上軍事上、樞要の港なるを以て、今開港場となれり。又要塞砲兵茲に駐屯す。

淡水港は一に滬尾と云ふ、淡水溪の吐口にあり、開港場にして、盛に茶を輸出すれども、港口淺く、碇泊に不便なり。

新竹は淡水港の西南にあり、四面石壁を繞らし、市街繁華なり、其近郷は田圃開け、農産頗る豊なり。又製糖製茶に従事するもの多し。

臺中縣

台中縣 東は新高山脈にして、西は廣潤なる平野をなす、臺灣海峽に沈む。中港溪、大安溪、大肚溪、大里溪の諸流は、西に流れ、下流は平野廣しと雖も、河水時々溢流し、害をなすこと多し。只大肚溪の流域は農産豊なり。

臺中府

臺中府は全島の中央に位し、縣廳の混成第二旅團所在地なれども、住民甚た少し。此地方は往年我軍の苦戦せし所なり。

彰化は繁華なる市街にして、縣城は石垣を繞らし、其東北山中に浦里社あり、支那人及蕃人の群居する處なり。又其西に鹿港街(人口一萬七千餘)あり、支那福建省の泉州に對し、大陸に至る最近の港にして、貨物の集散盛なり。其他他里霧及樟腦を以て有名なる雲林等あり。

臺南縣

台南縣 東は新高山脈によりて限られ、西面一帶臺灣海峽に沈む。諸溪流は西流或は南流するものあり。曾文溪、塩水溪は山脈に直角をなし、西流して北邊の平野をなし、下淡水溪は山脈に並行して南流す。此地方は既に熱帶圈内にありと雖も、氣候は却て臺北縣より溫和なりと云ふ。水牛、豚、家禽の飼養多し、殊に製糖業は、最も盛にして、鳳梨、芭蕉布と共に南部地方の主要なる物産なり。

臺南府

臺南府は元の臺灣府にして、鄭氏の都を定めしより、永く

臺灣島の首府たりし所なり。今縣廳及混成第三旅團を置く。府城は石垣を繞らし、周回二里ありと云ふ。道路家屋稍美麗に、且商業盛にして、此地方の中心市場なり。府の西に安平港あり、砂糖樟腦を輸出し、阿片毛布及木綿を輸入する。繁華なる開港場にして、澎湖島との間に海底電信を通せり。府の北方に嘉義あり、石壁を繞らせる一市街にして、此地は實に夏至線下に位す。

打狗港は開港場の一にして、盛に砂糖を輸出す。鳳山は是れより東三里餘の所に在り、製糖業最も盛なり。東南に東港あり、砂糖及び穀物を輸出し、商業盛なり。南端に恒春あり、本邦最南の一都邑にして、往年の征臺史上に歴々たる牡丹社は此附近にあり。

宜蘭廳

宜蘭廳 本管區は臺灣島の東北端の地にして、新高及シ

宜蘭

臺東廳



蕃 生

ルピア兩山脈の起點に當り、地勢一般に高峻なるも、海岸は低平にして、農耕に適し、碇泊に便なる處あれども、又懸崖數千尺の峭壁をなす處少なからず。宜蘭は廳のある處にして、熟蕃人多く住居し、稍繁盛なり。此附近は平野稍開け、麻胡麻を培養す。是れより南七里にして蘇澳港あり、港内水深く、碇泊に便なれども陸上の交通不便なるを以て、未だ陸盛に至らず。

台東 新高山脈以東の地にして、高山峻嶺至る處に重疊し、且殺伐なる生蕃人の棲息する所なるを以て、未だ充分之が探

卑南

究に從事せしものなきも、大河なく、都會なく、又良港に乏しきは、争ふべからざるの事實なり。  
卑南は臺東廳のある處なり。花蓮港は船を泊するに多少の便あり。

澎湖廳

澎湖廳 澎湖群島は臺灣海峽に横はる大小五十有餘の島嶼にして、東は澎湖水道を隔て、臺灣本島を望み、西は五十里の海を挾て清國の厦門と相對す、澎湖白沙魚翁の三島最も大にして、相擁して澎湖灣を抱く。其他北に吉貝嶼、南に八罩島等あり。地勢一般に低平にして、殆ど山川と稱すべきものなく、又清水に乏し。故に喬木生長せず、又米麥の産なく。且秣草なきを以て、僅かの豚、雞、鶩を養ふの外、他の畜類を飼養する能はず。然れども水産甚だ豊にして、是等不足せる物品との交易材料となる。

媽宮

媽宮(馬公)は澎湖島馬公灣の北にあり、澎湖廳のある處にして、人家七百餘戸あり。港内水深く、且廣濶なるを以て巨艦を容るゝに易し。殊に軍事上樞要の位置にあるを以て、砲臺を設け、要塞砲兵を置けり。

中本邦地理教科書終

明治三十四年一月十日印刷  
明治三十四年一月二十二日發行

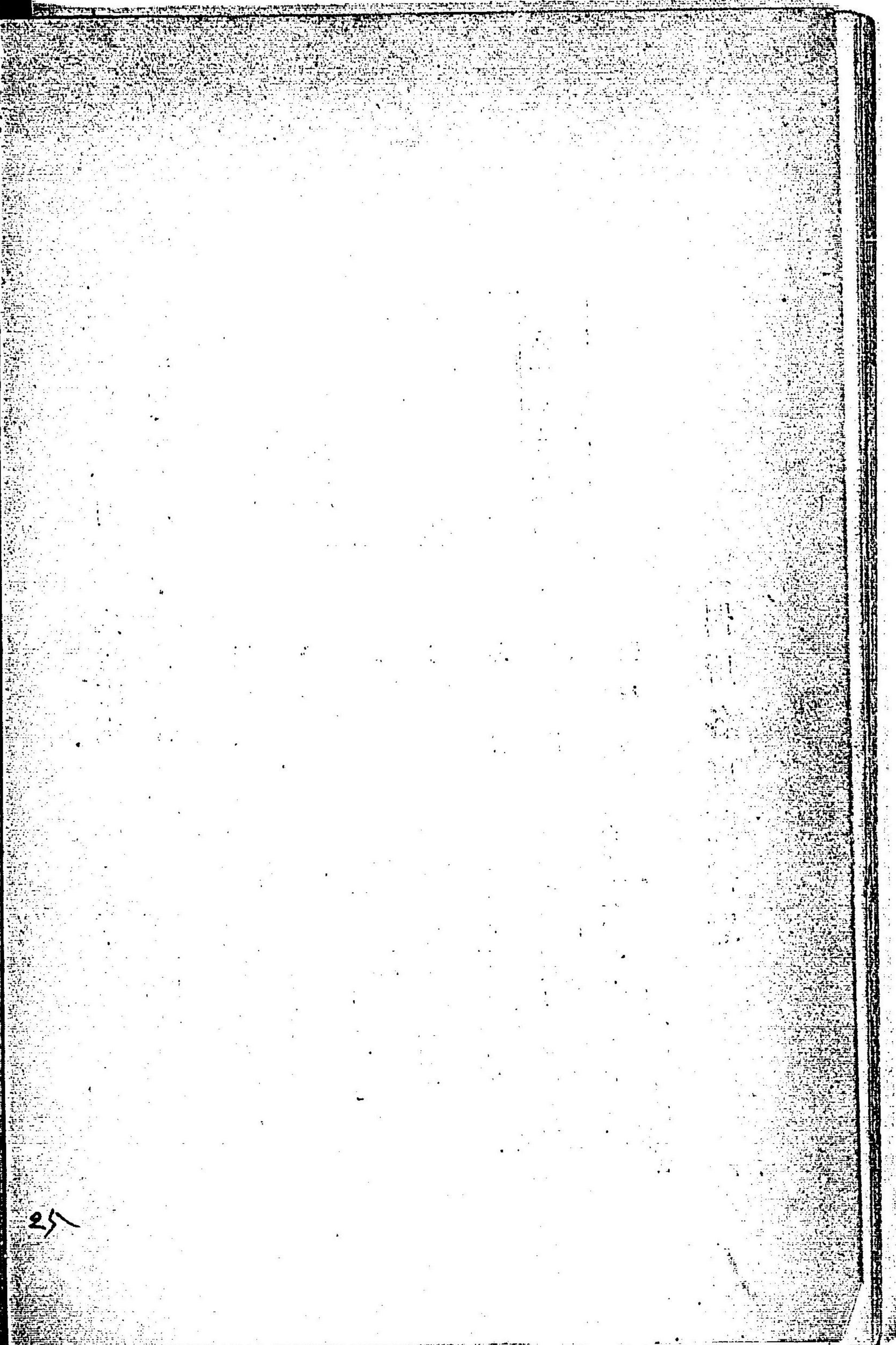
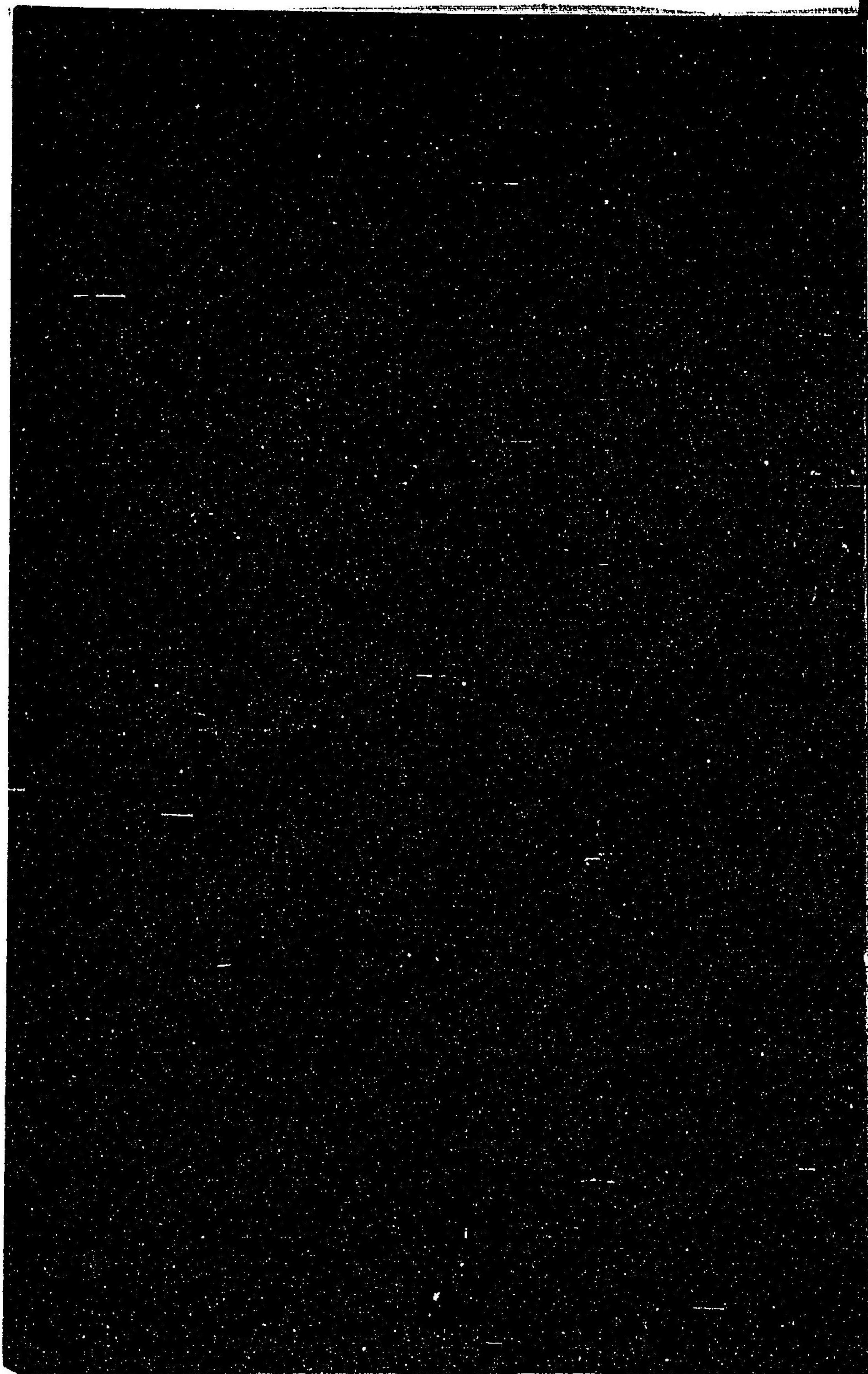
本邦地理教科書附

定價 金七拾錢

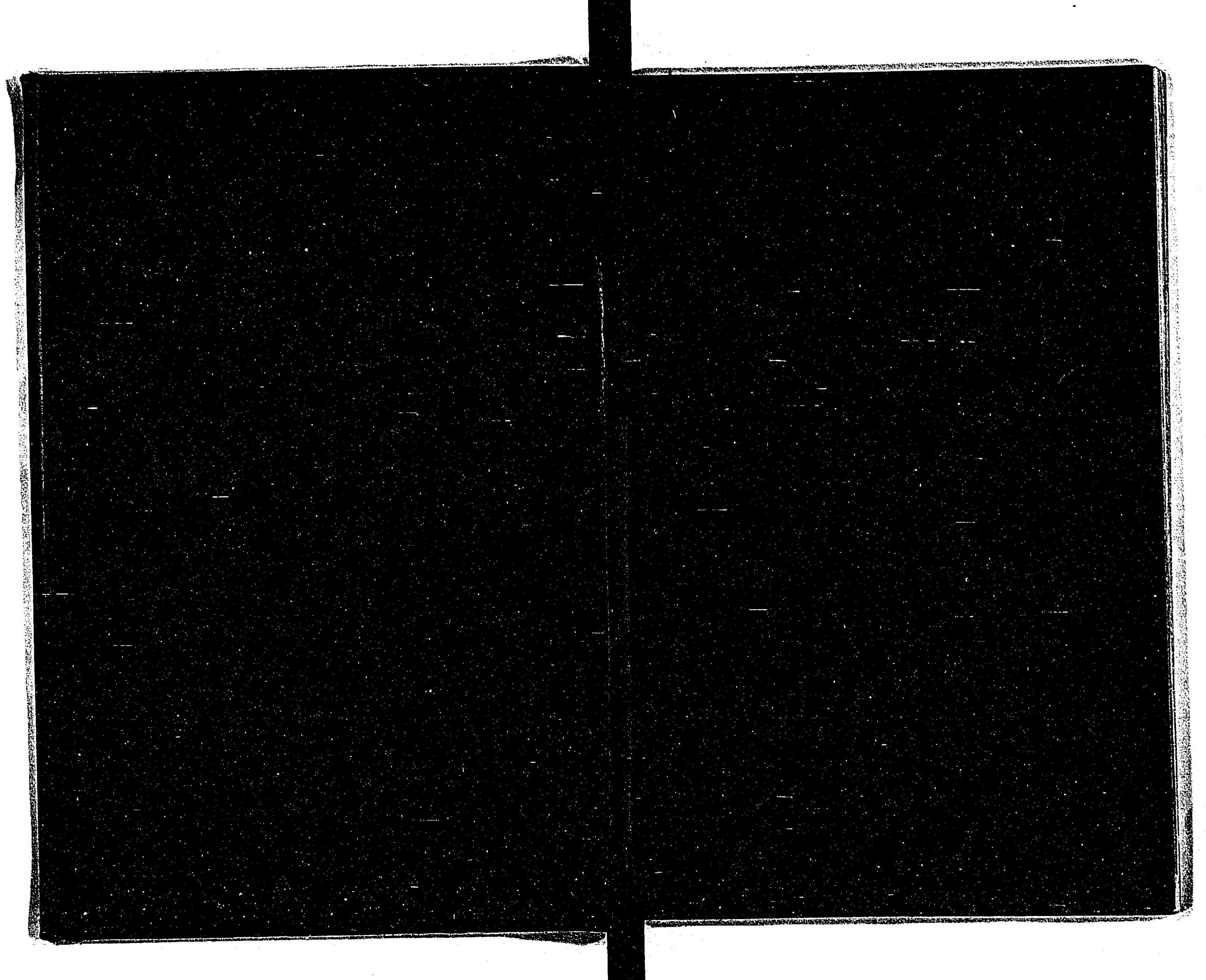


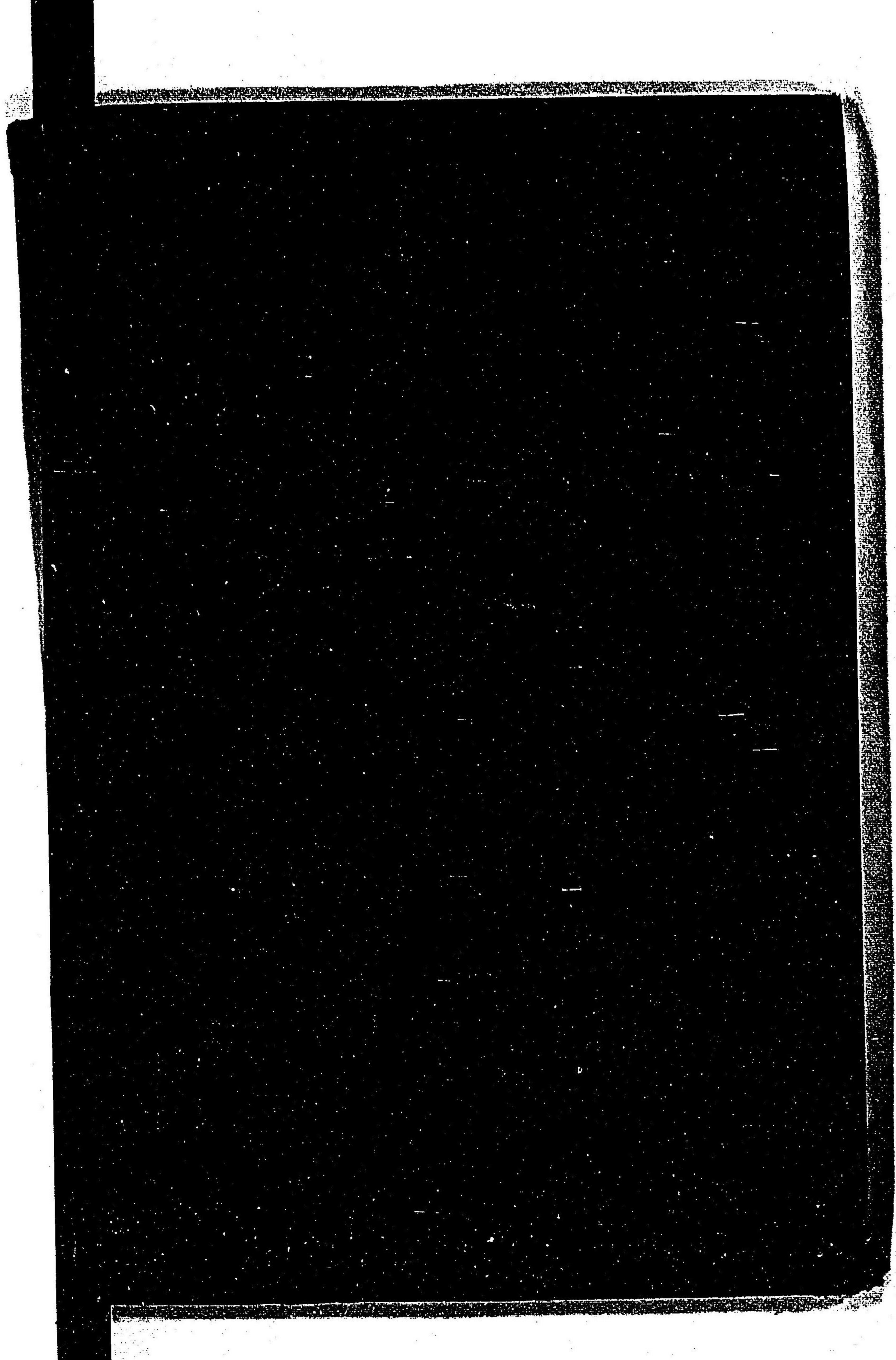
編纂者	佐藤傳藏	東京市麹町區下六番町四十八番地
發行者	杉本七百丸	東京市日本橋區本石町二丁目十二番地
同	柳原友吉	全市 區鐵砲町三番地
同	長島恭三郎	全市 區大傳馬町二丁目廿二番地
印刷者	橘磯吉	東京市京橋區弓町廿三番地
印刷所	三協合資會社	全市 京橋區弓町廿四番地
發行所	六盟館	全市 日本橋區大傳馬町二丁目廿二番地 電話 浪花百三十二番

大賣捌所各府縣書肆



251







90  
36

022688-000-3

90-36

中学本邦地理教科書

佐藤 伝蔵/編

M34

ADB-0464



